



学校だより  
しらかわ

飯豊町立添川小学校  
2018. 11. 8  
第14号

いきいき なかよく ほこりを持って



# 大成功！学習発表会

～大きな声で堂々と成果を発表～



10月27日（土）、今年度の「学習発表会」を開催し、子ども達は、ご参観いただいた多くの方々の前で、日頃の学習成果を堂々と発表しました。

今年度は、ご来賓、ご家族、来年度就学児とご家族、そして、地区の老人会「高砂会」の方々にもご案内を差し上げました。特に、高砂会の方々には、子ども達が下校途中に担当の先生と共にお宅を訪れ、直接招待状をお渡しする形をとりました。折しも、高砂会の事業「グランパ教室」においても「学芸会に行こう」という企画がありましたので、ぜひ、たくさんの方にご参観いただきたいという学校の願いもお伝えしながら配らせていただきました。

その甲斐もあってか、当日は多くの皆さんにご参観いただき、子ども達のやる気は最高潮。身振り手振りを交えての演技はすばらしく、台詞の大きな声が体育館に響き渡っていました。劇の他に、器楽奏や踊り、歌などもありましたが、どの発表も練習の成果が出ていて、それぞれの学年で工夫を凝らながら努力してきたことがよくわかるものでした。



## その後は「地区文化祭」を見学

学習発表会終了後、全校児童と教職員全員が東部地区公民館に移動して、地区の文化祭を見学しました。自分たちが出品した作品や地域の方々の作品、写真、映像などを観たり、置賜農業高校の生徒さんが眺め山牧場の牛乳で作った「手作りチーズ」や、良く味の染みた「玉こんにゃく」をご馳走になったりして、楽しいひとときを過ごしました。地域行事に参加し、地域の一員である意識を持って欲しいと思っています。



# 収穫祭

# 自然に感謝 みんなに感謝

11月2日（金）に収穫祭を行いました。「昭和地区農地・水保全会」の方々にご指導いただいて植えた里芋を収穫し、お世話になった方々をお招きして、子ども達が「芋煮」を作って皆で食べました。

里芋を収穫できた喜びもさることながら、日頃お世話いただいている地域の皆様への感謝を表す会として実施しました。「昭和地区農地・水保全会」の方々、「読み聞かせ」や「昔語り」をしていただいている方々、「外国語の学習でお世話になっている先生」などにお越しいただき、おいしい芋煮を食べながら感謝の気持ちを伝えました。2学期、子ども達は「ありがとう」「あきらめない」の2つの「あ」を心がけた学校生活を意識しています。当たり前食べているものが、多くの人の工夫と苦勞で生み出されていること、自分たちが多くの方々に支えられていることに気づかせることはとても大切です。



## 「手伝い」から「仕事」に ～家族の一員としての自覚を持たせる～

「手伝い」と「仕事」にはどんな違いがあるでしょうか。

「手伝い」は、「誰かを助けて一緒に働く」ことを言います。一方「仕事」は、もともと「すること」という意味だったのですが、それが「すべきこと」という意味になり、やがて「生きていくために必要だからすべきこと」に変わっていきました。

幼児期の子どもは、周りの大人が喜んでくれるのがうれしくて、自分が役に立とうと「手伝い」をします。そのまま小学校低学年・中学年でよくお手伝いしていた子どもも、高学年にもなると次第に手伝いへの意欲は薄れていって、「やりたくない」「面倒くさい」といった気持ちも出てくるもの。「手伝い」という言葉には、どこか「無責任でもよい」「やらなくてもよい」というイメージを抱きやすい面もあるように思います。

では、「手伝って」ではなく「あなたの仕事だからね。」と言われたらどうでしょう。自分以外には誰もやらないことを任せられた・・・そう思えば、責任感も感じずにいられません。やらなければ家族みんなが困る、自分がやれば家族みんなのためになる、そういう意識で働くと、次第に自分が家族の中で大事な役割を担い、なくてはならない存在であることに気づきます。「自分の行動に責任を持つ」ことも学びます。あくまで子どもの発達段階やその時の状況を考慮してですが、「手伝い」から「仕事」にレベルアップさせていくことが大切です。

「やらされている」という意識での行動ではなく、周囲を思いやって「仕事」のできる子どもに育てたいものです。そうためには、子どもの努力を大人が「ほめる」「認める」ようにしなければなりません。ほめられた経験は次の意欲につながります。そうやって、親子や家族の絆も、社会の絆も、より確かなものになっていくのではないのでしょうか。

